

海況速報

平成 15 年度 第 3 号 (通算 No.93)
平成 15 年 8 月 20 日
北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは
中央水産試験場 海洋環境部
Tel 0135-23-4020

7 月下旬から 8 月上旬の海況

日本海海域

松前西方に暖水渦

岩内西方はるか沖では、はっきりとした暖水渦にはなっていませんが、対馬暖流が西側の沖合へ大きく迂回しており、この付近で暖水渦状の水温分布となっています。このことから、前回(6月)奥尻島北西沖にあった暖水渦は、やや北西方向へ移動したようです。また、松前西方に新たに暖水渦が見えます(200m 層で 3 以上)。対馬暖流はこれら暖水渦の西側を北上しています。水温について見ると(平年偏差表参照)北緯 43 度以北では、水温が平年より低いところが多くなっています。松前西方観測線(J5)では対馬暖流が例年より西側(沖側)を北上しており、沖合の表面以外は例年より水温が高くなっています。一方、松前西方の沿岸側では水温が平年より非常に低くなっており、津軽海峡西口(J6)では、平年より 2 ~ 4 水温の低いところがあります。江差沖の北緯 42 度東経 140 度の水温が周辺より低くなっていますが、これは局地的な風による沿岸湧昇と考えられます。余市における 6 月下旬以降 8 月上旬までの沿岸水温(旬平均)は、6 月下旬から 7 月中旬までは「平年並み」から「やや低い」で推移しましたが、7 月下旬から 8 月上旬にかけて、「かなり低い」となっています。

道東太平洋海域

暖水塊接近

道東太平洋海域は暖水塊の影響を受け、100m 層で 2 以下の親潮でおおわれる範囲が前回(6月)より狭くなっています。この暖水塊の影響を強く受けた厚岸沖定線では、水温は平年より高く、前年同期に比べても 2 ~ 6 高い水温となっています。また、夏季に道東から襟裳岬へ向かって岸に沿って流れる道東沿岸流の 50m 層水温は、平年より 3 以上低くなっています。

道南太平洋海域

津軽暖流低温

100m 層で 10 以上の津軽暖流は、襟裳岬南西方の東経 142 度 40 分付近まで張り出しており、渦モード(*1)となっています。また、50m 層で 10 以上の津軽暖流水が白老沖にあります。噴火湾口には到達していないようです。水温について、平年より低いところが多く、特に尻屋崎北方沖定点(北緯 41 度 30 分東経 141 度 20 分 P66)の 0m 層および 50m 層では平年より 4 以上低く、非常に低い水温となっています。さらに表層水温は平年より 2 以上低いところが多くなっています。

オホーツク海海域

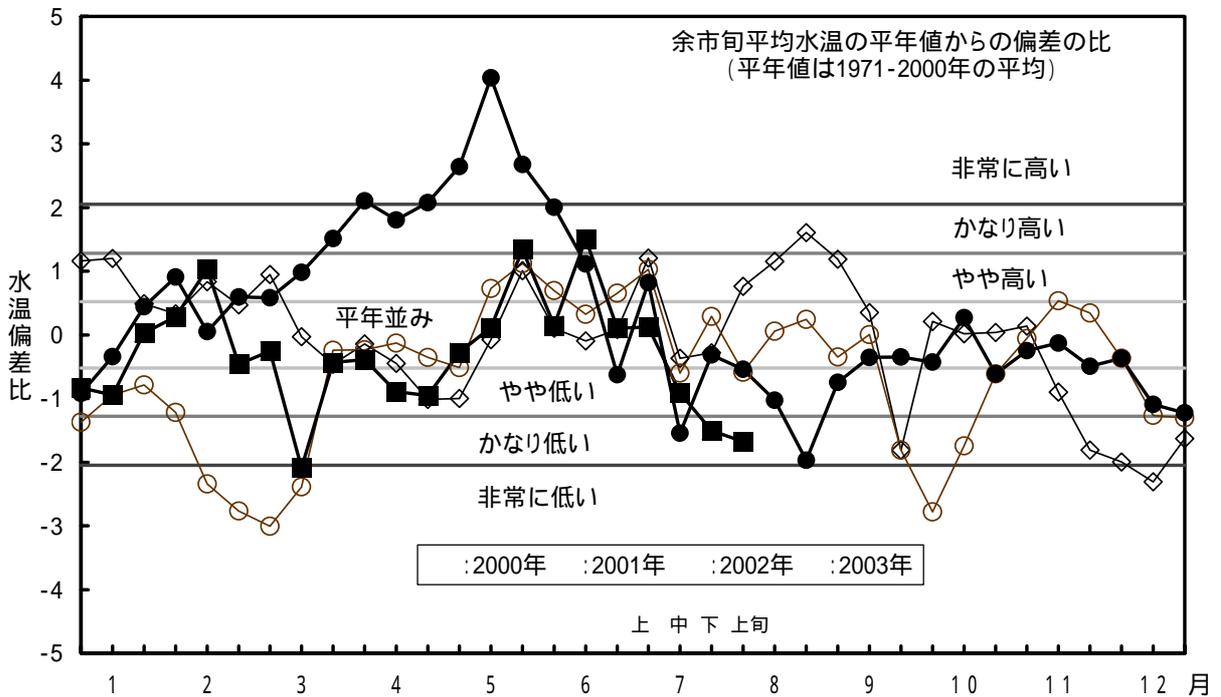
冷水帯出現

表面水温 14 以上の海域は網走沖まで達しており, 50m 層でも知床半島沖まで 10 以上となっていることから, 宗谷暖流は順調に流れているようです。宗谷海峡東方から浜頓別沖にかけて, 宗谷暖流の沖側に表面水温で 11 以下の冷水帯が形成されています。水温についてみると, 全体的に平年より低くなっています。

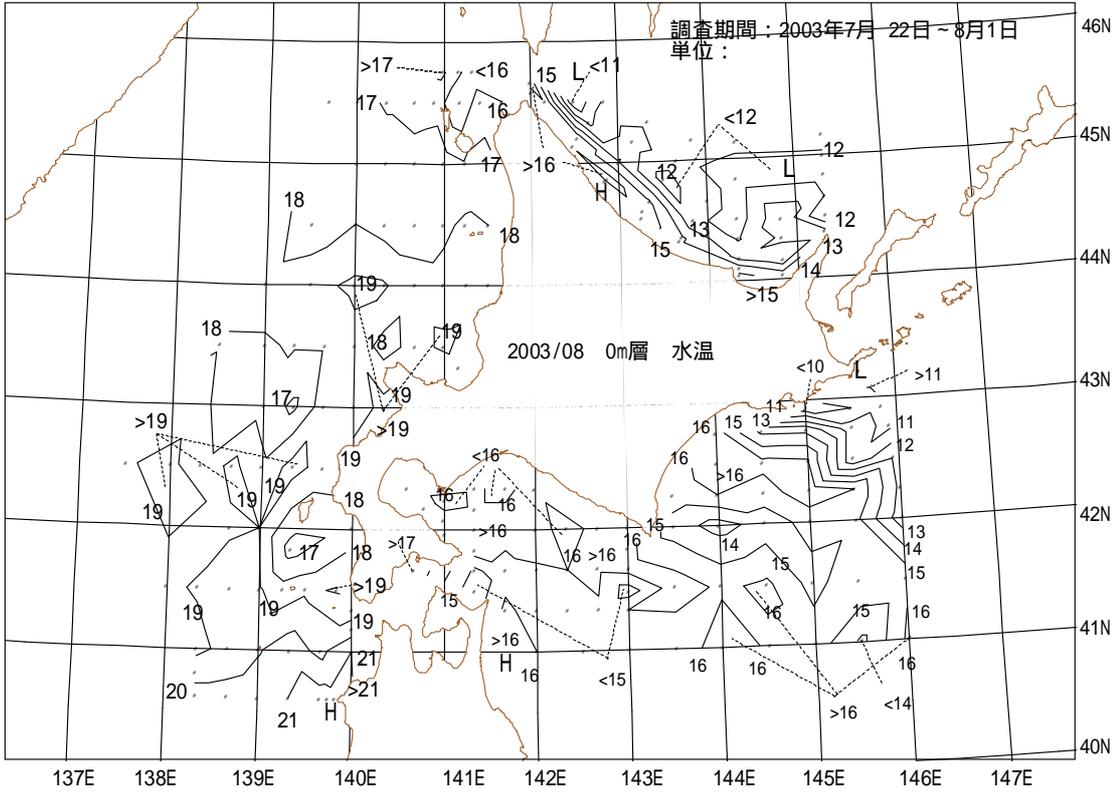
資料	観測期間	観測海域
青森水セ (東奥丸)	2003/7/31-8/1	(東北日本海海域)
釧路水試 (北辰丸)	2003/7/28-7/31	(道東太平洋海域)
函館水試 (金星丸)	2003/7/22-7/24	(道南日本海海域)
函館水試 (金星丸)	2003/7/28-7/31	(道南太平洋海域)
中央水試 (おやしお丸)	2003/7/24-7/27	(道北日本海・オホーツク海海域)
中央水試 (おやしお丸)	2003/7/28-8/1	(道北・道西日本海海域)

*

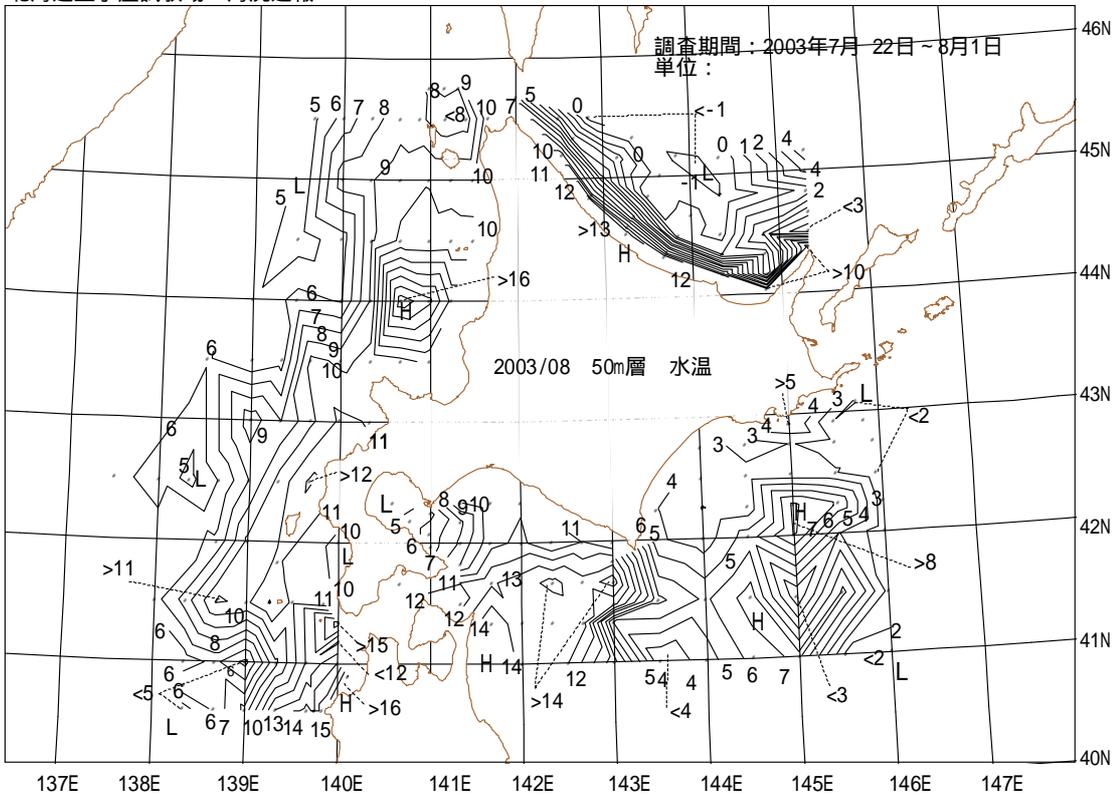
* 1 : 津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して, 津軽暖流が青森県尻屋埼からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を, 津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。



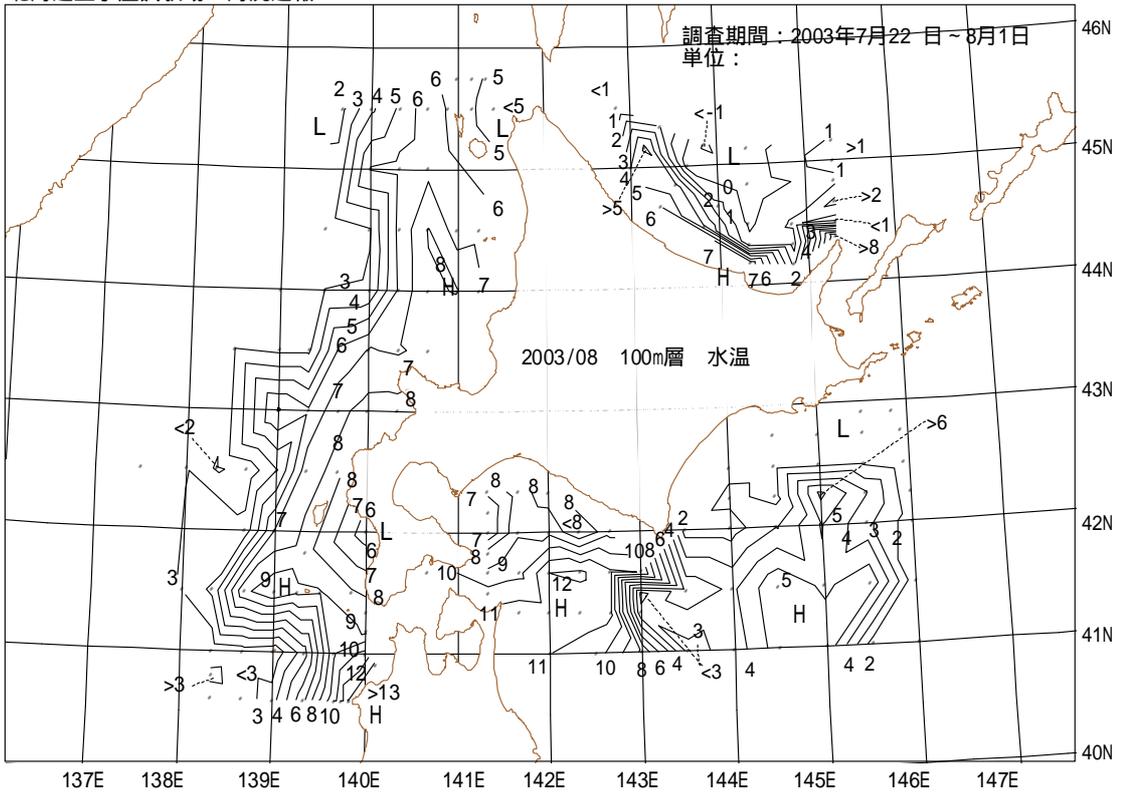
北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報



北海道立水産試験場 海況速報

